

令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立一条中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和3年5月27日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語 154人

② 数学 154人

5 留意事項

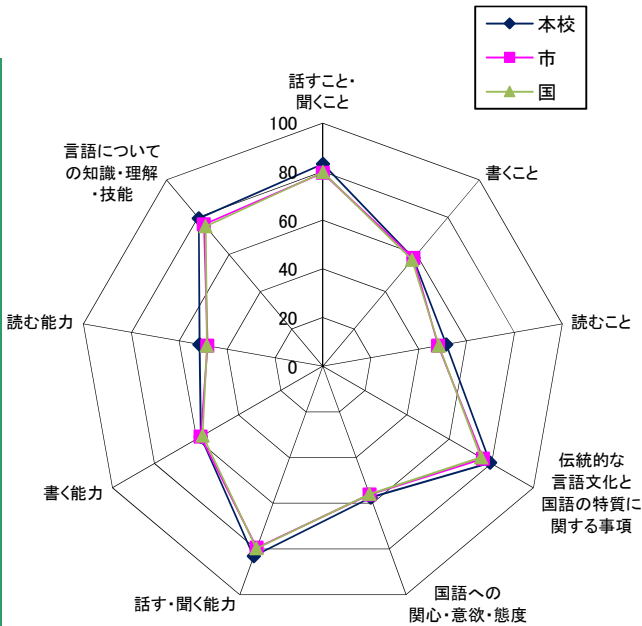
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立一条中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	83.2	79.5	79.8
	書くこと	58.0	58.0	57.1
	読むこと	51.5	48.2	48.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	79.4	76.1	75.1
観点	国語への関心・意欲・態度	57.5	56.2	56.0
	話す・聞く能力	83.2	79.5	79.8
	書く能力	58.0	58.0	57.1
	読む能力	51.5	48.2	48.5
	言語についての知識・理解・技能	79.4	76.1	75.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

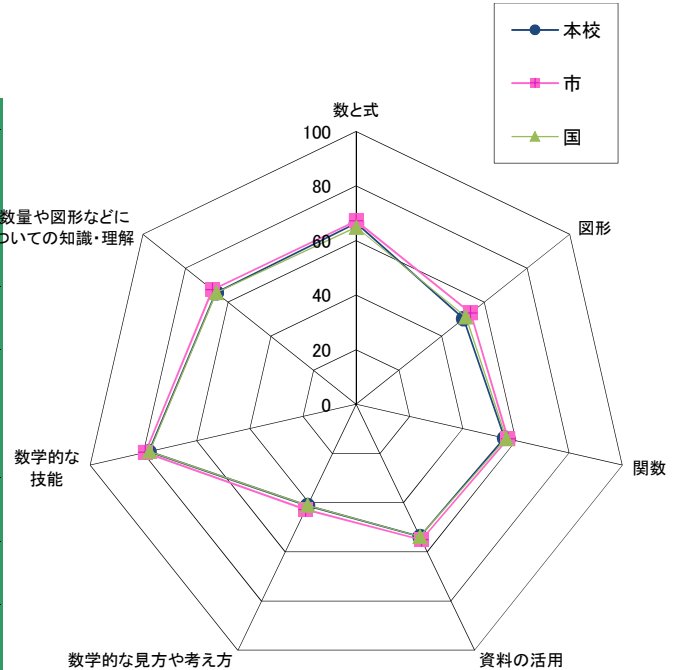
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	領域の平均正答率が国の平均より3.4ポイント、市の平均より3.7ポイント上回っている。 ○話し合いの話題や方向を捉える設問では、県や国の平均を上回り、9割以上の正答率であった。 ●話し合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える問題では、正答率は6割程度にとどまった。	・「話すこと」の指導の際には、誰に話すのかという相手意識や、どうして話すのかという目的意識を持たせた上で、話す内容を考えるよう指導する。 ・普段の授業の中で、話し合いの仕方や話の聞き方など基本的な「話す聞く」姿勢を定着させることに努める。
書くこと	領域の平均正答率が国の平均より0.9ポイント上回っており、市の平均とは同じであった。 ○伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く設問では、国の平均より2.0ポイント、市の平均より2.3ポイント上回っている。 ●書いた文章をお互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える設問では、国・市の平均よりも下回っている。	・授業の中で自分の考えを書く活動を積極的に設け、生徒の書くことへの抵抗感を減らしていく。その際、どのように書けば良いのか例や手順を明確に示すことで、書けない生徒への支援を丁寧に行っていく。
読むこと	領域の平均正答率が国の平均より3.0ポイント上回っており、市の平均より3.3ポイント上回っている。 ○登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する設問では国や市の平均を上回り、7割以上の正答率であった。 ●文脈の中における語句の意味を理解する設問では正答率が五割に届かなかった。 ●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えを持つ設問では、正答率が2割程度であり、国の平均よりも下回っている。	・説明的文章を読む際には、構成や段落どうしの関係に意識して、筆者がどのような工夫をして論説を進めているのか捉えられるよう指導していく。 ・文学的文章を読む際には、登場人物の心情に重点を置き、根拠を持ちながら自分の意見を持てるよう指導していく。 ・考えを深めるために、他者の意見に触れる機会を増やし、様々な視点から考えや心情を読み取れるようにしていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	領域の平均正答率が国の平均より4.3ポイント上回っており、市の平均より3.3ポイント上回っている。 ○文脈に即して漢字を正しく読む設問においては、正答率100%の問題があった。 ●相手や場に応じて敬語を適切に使う設問では、国や市の平均は上回っているが、正答率が5割程度であった。	・漢字に関わる単元では、漢字への関心や意識を高めることに努め、日々の漢字テスト等を通して基礎的な漢字を定着させていく。 ・敬語の単元では、文法的な理解にとどまらず、普段の生活と結び付けながら指導していく。どうして敬語が必要なのか、敬語の良さは何か、など生徒が主体的に学びに向かえるような声掛けにも努める。

宇都宮市立一条中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	66.4	67.2	64.9
	図形	50.3	53.6	51.4
	関数	55.7	57.0	56.4
	資料の活用	53.8	55.1	53.8
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	41.2	42.8	41.1
	数学的な技能	77.9	79.3	77.7
	数量や図形などについての知識・理解	65.7	67.4	65.6



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率が市平均と比べ、－0.6ポイントであった。 ○具体的な場面で、一元一次方程式ができる、という問いに対し、県の平均を3.3ポイント上回った。 ●目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして事柄が成り立つ理由を説明することができる、という問いに対しては県の平均を－5.3ポイントと下回っている。	・具体的な数字を用いて事柄が成り立つことを確認し、文字を用いた一般化へと移行していく指導を行う。 ・ $4n+12=4(n+3)$ と式を変形する意味を考えさせ、目的を持って式を変形できるようにする。
図形	平均正答率が市平均と比べ、－3.3ポイントであった。 ○錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している、という問いに対しては県の平均を3.1ポイント上回った。 ●扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している、という問いに対しては県の平均を－4.7ポイント下回っている。	・扇形の弧の長さや面積の求め方を、観察、操作や実験などの活動を通して理解を深めさせ、繰り返し演習を行っていく。 ・扇形の弧の長さや面積が、その中心角の大きさに比例していることを示し、図形の中に現れる関数の関係について示していく。
関数	平均正答率が市平均と比べ、－1.3ポイントであった。 ○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる、という問いに対しては県の平均を2.0ポイント上回った。 ●関数の意味を理解している、という問いに対しては県の平均を－3.6ポイント下回った。	・ともなって変化する2つの数量とは何かについて、文章中に印をつけたり、表やグラフの中でも色分けしたりし、視覚的にとらえやすい板書をする。 ・関数の意味について、各学年の関数の導入授業において繰り返し説明し、定着を図る。
資料の活用	平均正答率が市平均と比べ、－1.3ポイントであった。 ○データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる、という問いに対しては県の平均を0.8ポイント上回った。 ●与えられたデータから中央値を求めることができるという問いに対しては、県の平均を－7.6ポイント下回った。	・頻繁に使用される言葉の学習を授業に多く取り入れる。また、資料から読み取った様子を自分の言葉で表現する活動を通し、思考力を育みたい。 ・代表値の求め方について、資料から求める場合と、表から求める場合で分かりやすく場合分けを行って指導し、繰り返し演習を行っていく。

宇都宮市立一条中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「将来の夢や目標を持っているか」の質問に対して、肯定割合は74.7%で県及び全国を上回る結果となった。1年生からの継続的なキャリア教育(キャリアパスポート等の活用)の成果が表れていると思われる。今後も個に応じた丁寧な進路指導を行いたい。

○「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」の質問に対して、97.4%が肯定的な回答であった。また「自分と違う意見について考えるのは楽しい」の質問では、肯定割合は79.9%と県及び全国を上回る結果となった。今後も互いを尊重し、高め合える集団の雰囲気作りと誰もが安心できる中学校生活を継続できるよう指導していきたい。

○「学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つ」の質問に対して、肯定割合は96.1%と県及び全国を上回る結果であった。GIGAスクール(生徒一人に1台タブレット貸与)が開始され、家庭環境差なくITCを活用した学びの機会が多く持たれた成果であると考えられる。今後も様々な場面でICTを有効活用した指導をしていきたい。

●「新聞を読んでいるか」の質問に対して、「ほとんど、または、全く読まない」の回答が79.9%と県及び全国と比べても高い結果となった。新聞を取っていない家庭が増え、新聞と触れ合うことができない生徒は多くなっている。今後も総合的な学習の時間等を活用し、NIE教育を推進していきたい。

●「地域の行事に参加しているか」の質問に対して、否定割合が72.1%と非常に高い回答であったが、感染症拡大防止のため行事が中止となったり、規模縮小で生徒が参加できない状況であったりした結果であると思われる。通常の状況では、ボランティア活動もさかんで地域参画や社会貢献の意識は高い生徒が多く、今後は改善されていくと思われる。

●「道徳の授業では考えを深めたり、話し合ったりする」の質問に対して、肯定割合が県及び全国に比べ低い結果となった。コロナ禍で話し合い活動を十分に行うことができなかったことが原因であると思われる。学習内容にしっかりと向き合い、課題を自分事として考えられるようにすること、また、ITC機器を有効に活用する等、他者との意見交換を十分に引き、さらに自分の考えを深めていけるような授業展開の工夫に取り組んでいきたい。

宇都宮市立〇〇〇中学校(第3学年) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
学習習慣を確立させるための工夫	家庭学習ノートを用いた自主学習を毎日行い、提出するように指導している。 定期テスト2週間前を「家庭学習強化週間」として計画表等を配付し学習に対する意識を高めさせるようにしている。	「家で自分で計画を立てて勉強している」の肯定割合は60.4である。県や全国と比べて8.1・3.1下回っている。平日2時間以上の勉強時間の割合は39.6であり、県や全国を2ポイント程度下回っている。
思考力・判断力・表現力を育てる工夫	基礎・基本の繰り返し指導や小テストを行う。 伝え合う力の育成に向けての学習活動や形態の工夫をする。	「話し合う活動では自分の考えをしっかりと伝えていた」の肯定割合は82.5である。県や全国を4.1・1.2下回っている。 総合的な学習の時間では、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んおり、肯定割合も83.2である。県や全国を2.6・3.0上回っている。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
「話し合う活動では自分の考えをしっかりと伝えていたか」の肯定割合は82.5である。県や全国を4.1・1.2下回っている。また、自分の考えを書く国語の問題では、正答率が73.9%であり県より3.5%下回っている。記述式の問題では無回答率も多く見られた。	○話し合いを通して考えを広げたり深めたりする学習の工夫～ものごとをいろいろな視点や立場から考える力をはぐくむ～ ○根拠をもとに考えを説明する力をはぐくむ	一条地域学校園(学習部会学力向上分科会)の重点目標にもなっているので、各教科において工夫した実践を行う。 ・伝え合う力の育成に向けて学び合いの場の設定 ・多様な思考や表現を生み出す学習活動の工夫